

7. 歯学部

I	歯学部の教育目的と特徴	7 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	7 - 3
	分析項目 I 教育活動の状況	7 - 3
	分析項目 II 教育成果の状況	7 - 24
III	「質の向上度」の分析	7 - 29

I 歯学部の教育目的と特徴

1 歯学部の教育目的

歯学部は、良き歯科医療人や優れた研究者を育てることを目的とし、「国民への高度な歯科医療の提供」と共に「先端的な歯科医療の研究開発」を重視した人材育成を行っている。さらに、社会のニーズの多様化と国際化が急速に進む現在、学際的・国際的な人材の育成に努めている。

2 歯学部の教育内容

学部教育では、歯科医療に必要な臨床科目、その礎となる基礎科目などを中心に、歯科医師に必要な「知識」、「技術」、そして医療人としての「態度」の習得を目指す。

3 歯学部における教育の特徴

教育目標に沿って以下のような特徴あるカリキュラムが実行されている。

- 1) 能動的自己学習：1年次では問題発見・解決能力の習得、3年次では医療コミュニケーション能力の習得、4年次では Evidence-Based Medicine (EBM)・プロフェッショナルリズムの修得を目指した少人数教育を取り入れている。
- 2) 短期留学制度と自由研究演習：3年次では、クォーター制を利用して、歯学国際交流演習 (ODAPUS プログラム) と学部内各研究室又は学外研究施設に配属される自由研究演習が用意されている。
- 3) モデルコアカリキュラムと歯学系共用試験：全ての専門教育科目は、歯学教育モデルコアカリキュラムの内容が基本となっており、それに基づき歯学系共用試験 (CBT、OSCE) が実施されている。
- 4) 臨床実習重視：5年次後半より約1年間のクリニカルクラークシップ形態による診療参加型臨床実習を実施している。患者の十分な配当、厳格な指導医の資格認定、患者の臨床実習参画の許諾取得、電子ツールを利用した症例数把握、医科歯科連携、在宅訪問診療など先進的な取組を進めている。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、受験生及びその家族、歯学部生、医療を享受する地域住民、卒業生の雇用者、歯科医師会等地域歯科医療支援組織、医療行政関係者、創薬・医療機器開発メーカー、歯学部・歯学系大学院教員である。ほぼ全ての関係者が、優れた歯科医師の養成を期待している。また、歯科医療支援組織、医療行政関係者は優れた行政人材を、創薬・医療機器開発メーカー、歯学部・歯学系大学院教員は優れた研究者を求めていると捉えている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

- 1) 【教育体制】 歯学部は、歯学科のみからなる6年制学部であり、入学定員は一般入学48名、3年次学士編入学5名である(資料Ⅱ-I-1)。歯学部歯学科の教育は、主として大学院医歯薬学総合研究科と岡山大学病院に配置された歯学系及び歯科系の専任教員(131名)が担当している(資料Ⅱ-I-2)。これらの専任教員は、教養教育(資料Ⅱ-I-3)及び専門教育(資料Ⅱ-I-4)を担当している。
- 2) 【教務委員会下部組織】 教務委員会に、カリキュラム検討部会、臨床実習実施部会、OSCE部会、国家試験対策部会、チュートリアル検討部会、早期見学実習検討部会、公募問題作成部会、講義室・実習室利用部会、ODAPUS実施担当、CBT対策・実務担当、FD実施担当などを置き、専門的な対応を進めている(資料Ⅱ-I-5)。
- 3) 【歯学教育・国際交流推進センター】 学部長の直轄組織として歯学教育・国際交流推進センターを置き、各種外部資金の獲得や学内外の喫緊の課題に対応している。
- 4) 【情報伝達と収集】 歯学部将来構想検討WGを設け、若手教員に対する教育・研究活動等の情報伝達と意見収集を行っている(資料Ⅱ-I-6)。
- 5) 【顧問教員制度】 アカデミックアドバイザーとして顧問教員制度を設け、入学から卒業まで一貫した指導を行っている(資料Ⅱ-I-7)。これに加え、留年生対策として平成25年度からは学年主任・副主任制度を併用している。
- 6) 【留学生アドバイザー制度】 私費外国人留学生の授業、課外活動等での問題に対処するため各学年に留学生アドバイザーを設けている。

資料Ⅱ-I-1：歯学部歯学科の収容定員と学生現員

年 度	収 容 定 員	学 生 現 員
平成22年度 (H22. 5. 1現在)	350 人	364 人
平成23年度 (H23. 5. 1現在)	343 人	350 人
平成24年度 (H24. 5. 1現在)	336 人	337 人
平成25年度 (H25. 5. 1現在)	329 人	323 人
平成26年度 (H26. 5. 1現在)	322 人	315 人
平成27年度 (H27. 5. 1現在)	315 人	312 人

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－２：大学設置基準に定められた専任教員数及び現員

(平成27年5月1日現在) (単位：人)

大学設置基準に定める 専任教員数	現 員					
	教 授	准 教 授	講 師	小 計	助 教	計
75	19	14	3	36	50	86
※教授・准教授・講師 計36以上 教授18以上	(2)	(2)	(19)	(23)	(22)	(45)

()内は病院籍で外数

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－３：歯学部教員による教養教育科目

平成27年度開講科目

科目区分	授業科目	担当教員	学部	学期
個別科目 (情報科学)	情報処理入門	高柴正悟	歯	前
主題科目 (健やかに生きる)	痛みの科学	宮脇卓也 他	歯他	前
主題科目 (健やかに生きる)	学際的研究と臨床	窪木拓男 他	歯他	前
主題科目 (健やかに生きる)	成長・老化の人間学	上岡 寛 他	歯他	前
主題科目 (健やかに生きる)	口の機能と健康管理	松尾龍二 他	歯他	前
主題科目 (健やかに生きる)	健康と口の病気	高柴正悟 他	歯他	後
主題科目 (健やかに生きる)	歯と骨の科学	山本敏男 他	歯他	後
主題科目 (自然と技術)	遺伝子工学の新展開	大原直也 他	歯他	後

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

別表第2 (専門教育科目の単位数及び履修方法等) (抜粋)

区 分				授 業 科 目	単位数	必修 選択の別
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	自然科学 から歯学 を知る	生物学から 見た歯学	細胞生物学	2.0	必修
			物理・化学 から見た歯 学	生体材料学1	1.0	必修
				生体材料学2	1.0	必修
		グローバル人材育成特 別コース	グローバルスタディズ1(医療 系)	2.0	選択	
	専 門 科 目	歯学の研 究と医療 を知る	医療と研究 の原点	早期見学実習	4.0	必修
			人体の構 造と機能	細胞・組織 の構成	細胞・組織学	2.0
		生体分子の構造・機能と代謝			2.0	必修
		器官系の構 造		神経の構造	2.0	必修
				頭頸部の構造	2.0	必修
				内臓の構造	1.0	必修
	運動器の構造演習	0.5	必修			

(出典：平成27年度歯学部学生便覧)

資料Ⅱ－Ⅰ－４：歯学部歯学科の教員組織の構成と専任教員（教授）の配置

(平成27年5月1日現在) (単位：人)

学科目名	口腔基礎 常態学	口腔基礎 病態学	口腔病態 外科学	口腔機能 再建学	予防・発育 加齢歯科学
教授	4	3	4	4	4

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－５：歯学部教務委員会組織図

歯学部教務委員会	カリキュラム検討部会（教務委員長）	
	臨床実習実施部会	
	その他の専門部会	チュートリアル部会
		講義室・実習室利用部会
		早期見学実習検討部会
		OSCE部会
		公募問題作成部会
		国家試験対策部会
		CBT実施担当
		ODAPUS担当
FD実施担当		

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－６：歯学部将来構想検討WG

第8回 歯学部将来構想検討WG資料 (平成26年7月30日)
<ol style="list-style-type: none"> 1. B&R会議の内容（大学部局横断教員再配置計画、60分授業など）について 2. 各部局における加速期間における機能強化等に向けた取組のまとめ（大学改革構想） 3. 課題解決型高度医療人材養成プログラムの採択について 4. 概算要求プロジェクト経費に関する国際シンポジウムの開催について 5. サクラサイエンスプランの申請について 6. 新規概算要求申請について 7. 歯学部教育改革・国際交流支援センター設立について 8. その他（バイオフォーラム等）

(出典：岡山大学歯学部将来構想検討WG資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－７：顧問教員制度

入学年度	学生番号	氏名	備考
平成22年度	1～30	長塚 仁	※同じ入学年度を担当する顧問教員は片方の副顧問教員となる。
	31～	皆木 省吾	
平成23年度	1～30	大原 直也	
	31～	飯田 征二	
平成24年度	1～26	佐々木 朗	
	27～	仲野 道代	
平成25年度	1～26	松本 卓也	
	27～	高柴 正悟	
平成26年度	1～26	鳥井 康弘	
	27～	上岡 寛	
平成27年度	1～26	久保田 聡	
	27～	宮脇 卓也	

(出典：平成27年度歯学部学生便覧)

2 多様な教員の確保の状況とその効果

- 1) 【女性や外国人教員】 女性教員の割合は約 20.0% (平成 27 年度)、外国人教員や外国に 1 年以上留学経験がある教員の割合も 41.2% に達している。
- 2) 【非常勤講師等】 特殊な授業科目においては、国際医療支援団体職員などの非常勤講師を積極的に登用している (資料Ⅱ-I-8、-9)。
- 3) 【臨床教授等】 臨床実習を充実させるため、広く学外から臨床経験の豊富な歯科医師を臨床教授等として招くとともに、学外実習に引率させている (資料Ⅱ-I-10)。
- 4) 【臨床講師の活用】 平成 25 年度からは在宅介護歯科医療専任臨床講師を任用し、在宅介護に関する学外臨床実習、臨床研修の先導的なプログラムの開発に取り組んでいる。

資料Ⅱ-I-8：歯学部歯学科の学内・学外兼務教員（非常勤講師）数

(単位：人)

年 度	学 内	学 外
平成22年度	109	75
平成23年度	106	73
平成24年度	109	75
平成25年度	112	78
平成26年度	108	76
平成27年度	107	80

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ-I-9：外部連携による授業

【平成 27 年度各分野専門科目】

連携事例	区分	担当分野	連携組織名	備考
インプラント再生補綴学	講義	インプラント再生補綴学	倉敷成人病センター 歯科担当部長	講義の一部
障害者歯科学	講義	スペシャルニーズ歯科センター	医療法人発達歯科会 院長	講義の一部
感染症学	講義	口腔微生物学	堺市衛生研究所 所長	講義の一部
発病の病理・病態学 治癒の病理・病態学	講義	口腔病理学	医療法人里仁会興生総合病院 科長	講義の一部
口腔疾患の病理・病態学 口腔腫瘍の病理・病態学	講義	口腔病理学	特定非営利活動法人ヘルスサイエンス地域国際センター 代表理事	講義の一部
小児歯科学	講義	小児歯科学	林原歯科クリニック 院長	講義の一部
生体材料学	講義	生体材料学	和田精密歯研株式会社 顧問	講義の一部

【平成 27 年度共通専門科目】

連携事例	区分	担当分野	連携組織名	備考
臨床歯科心理学	講義	教務委員長	岸田歯科医院 院長	講義の一部
地域歯科医療・在宅歯科医療	講義	教務委員長	国民健康保険上斎原歯科診療所 所長	講義の一部
早期見学実習	講義	教務委員長	国立療養所 邑久光明園 園長	講義の一部
早期見学実習	講義	教務委員長	社会福祉法人旭川荘 特別研究員	講義の一部
医療安全と医療訴訟	講義	教務委員長	森脇法律事務所 弁護士	講義の一部
国際医療貢献	講義	教務委員長	特定非営利活動法人 アムダ (AMDA) プロジェクトオフィサー	講義の一部
医療と福祉	講義	教務委員長	とくながグループ・社会福祉法人 桑の実 福社会 顧問	講義の一部

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－10：外部連携による授業：臨床教授等

平成 27 年度

(単位：人)

臨床教授	臨床准教授	臨床講師
15	10	22

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

3 入学者選抜方法の工夫とその効果

- 1) 【多様な入試】 歯学部の入試は、第3年次編入学試験（5名）、推薦入試（10名）、前期日程試験（30名）、後期日程試験（8名）、私費外国人特別入試（平成16年より）、国際バカロレア入試（平成26年より）と多様である。近年入試倍率も上昇し多種多様な人材の獲得に成功した（資料Ⅱ－Ⅰ－11）。
- 2) 【高大連携等】 有力高校に対する出前講義に加え、学外のプレオープンスクール、学内のオープンキャンパスを実施した。オープンキャンパスでは、学部学生による学生生活紹介、学内見学、各種展示などを行った（資料Ⅱ－Ⅰ－12）。日本学術振興会のひらめき☆ときめきサイエンスプログラムにより、小学生に電子顕微鏡を用いた研究の醍醐味を共有した（別添資料1）。

資料Ⅱ－Ⅰ－11：志願倍率の推移

	第3年次編入学試験			推薦入試		
	志願者	入学者	志願倍率	志願者	入学者	志願倍率
平成 22 年度	44 人	5 人	8.8%	20 人	15 人	1.3 %
平成 23 年度	65	5	13.0	41	10	4.1
平成 24 年度	38	5	7.6	25	10	2.5

平成 25 年度	46	5	9.2	15	10	1.5
平成 26 年度	45	5	9.0	27	10	2.7
平成 27 年度	41	5	8.2	21	10	2.1

	前期日程試験			後期日程試験		
	志願者	入学者	志願倍率	志願者	入学者	志願倍率
平成 22 年度	80 人	29 人	2.67%	95 人	10 人	9.50%
平成 23 年度	82	30	2.73	97	8	12.13
平成 24 年度	104	30	3.47	91	8	11.38
平成 25 年度	76	30	2.53	72	8	9.00
平成 26 年度	151	30	5.70	123	8	15.38
平成 27 年度	120	30	4.00	109	8	13.63

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－12：オープンキャンパス 2015 の内容

日時：平成27年8月7日（金）		
（午前）9時30分～12時30分 （午後）14時00分～17時00分		
※午前・午後とも同じ内容です。		
会場：岡山市北区鹿田町二丁目5番1号（岡山大学病院（歯科）内） 歯学部棟4階第一講義室（鹿田キャンパス）		
プログラム：		
午前の部	午後の部	内 容
9：00～	13：30～	受 付
9：30～	14：00～	歯学部長挨拶（窪木拓男 歯学部長） 学部の概要説明（窪木拓男 歯学部長） 入試に関する説明（杉本朋貞 入試委員会委員長） 学生生活について（歯学部現役学生） 質疑応答
10：50～	15：20～	病院見学、展示物見学、模擬授業等
12：30	17：00	解散、個別相談

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

4 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

- 1) 【教員評価】 教員個々の活動を活性化するため教員活動評価を行い、その結果を給与や賞与に反映させている。また、任期制が導入され、平成22年度より31名の再任審査を実施した（資料Ⅱ－Ⅰ－13）。
- 2) 【同僚による授業評価】 同僚による授業評価（ピアレビュー）（資料Ⅱ－Ⅰ－14）を実施している。授業担当者とレビューワーとの間で授業改善のための懇談がもたれ、歯学部教務委員会にその内容が報告されている（資料Ⅱ－Ⅰ－15）。
- 3) 【授業評価と改善】 学生による授業評価アンケートの活用に加え、各教員はそれぞれの授業の中で学生の意見を取り入れ授業改善を行っている（資料Ⅱ－Ⅰ－16）。
- 4) 【FD活動】 歯学部FDワークショップ及びFD講演会を多数開催している（資料Ⅱ－Ⅰ－17）。学外組織が主催するOSCEワークショップ（資料Ⅱ－Ⅰ－18）や医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー（資料Ⅱ－Ⅰ－19）にも毎年教員を派遣している。

資料Ⅱ－Ⅰ－13：再任審査を受けた教員数

(単位：人)

年 度	准教授	講師	助教	合計
平成22年度	1	1	5	7
平成23年度	2	0	1	3
平成24年度	2	0	5	7
平成25年度	1	0	2	3
平成26年度	1	0	6	7
平成27年度	1	0	3	4

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－14：同僚による授業評価（ピアレビュー）について

同僚による授業評価（ピアレビュー）実施体制について

【基本理念】

1. ピアレビューとは、ある授業に対し、同一または近接分野の教員が、実地観察をもとにその方法、効果を学んで自己の行う授業の質を高め、あるいは当該授業の改善点について意見を伝え、互いの授業の質を高めることを目的として行う協力作業のことをいう。
2. 授業の質とは、履修学生が獲得する知識量のみならず判断力、感性の涵養、特殊技能の獲得量及びそれらの、学生が学習に費やすべき労力に対する比、など多様な内容を含む。
3. 実施に当たっては、教員の思想・信条、知的財産権、人間的感情への配慮、並びに学生の個人情報についての保護に配慮する。

【実施体制】

1. 実施担当組織：歯学部教務委員会
2. 対象授業：各年度に教務委員会が2～3科目を選定する。選定基準は授業対象学年、クォーター別、コアカリキュラムを参考にする。
3. レビューワー：レビューワーとして歯学部より2～3人の教員を任ずる。当該科目の分野に造詣の深いものを教務委員会が1人以上指名する。また講義担当者が候補者を推薦することも妨げない。
4. 評価
 - 4-1. 事前説明：担当教員は授業計画説明書を作成し、事前にレビューワーに対し説明を行う。
 - 4-2. 評価項目：評価はコアカリキュラムに準拠した授業が行われているかに重点を置く。そのためレビューワーは、前述の授業計画説明書と当該科目のシラバスをもとに、教材の準備状況、プレゼンテーションの技術等について、前年度の学生授業評価アンケート結果と対応させながら評価する。
 - 4-3. 結果評価：上記の結果について、授業担当教員との面談を行い、結果報告書を作成すると共にそれを授業改善のための参考とする。
5. 報告：上記結果報告書は教務委員会が取りまとめ保管し、必要に応じて全学FD委員会に報告する。

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－15：平成27年度同僚による授業評価（ピアレビュー）実施の結果について

開講時期	対象学年	授業科目名	授業担当者	ピアレビュー実施日	レビューワー
第Ⅲクォーター 火曜4限	4年次	生体材料学2	松本卓也	平成27年11月30日	久保田 聡 (口腔生化学) 川邊 紀章 (歯科矯正学)

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－16：教員活動評価

教員活動評価調書の評価項目
教員の活動評価（抜粋）

評価項目

評価領域ごとの基本的な評価項目は、次に掲げるとおりとする。評価実施単位ごとに定め、特定の評価領域に偏り過ぎないようにする。

(1) 教育

- ① 学部・大学院教育（授業担当科目、論文指導）
- ② 学生による授業評価
- ③ 教育方法の改善等
- ④ FDへの取り組み
- ⑤ 教育活動に関する受賞
- ⑥ 学生支援
- ⑦ 国際共同による教育
- ⑧ 外国人留学生の受入
- ⑨ その他

（出典：国立大学法人岡山大学教員活動評価実施要項）

資料Ⅱ－Ⅰ－17：FD関連各種講演会実施報告書

行 事 名	日 時	講 師 名
講演会：共用試験歯学系CBT問題作成について	平成22年4月23日	東京医科歯科大学准教授：大槻昌幸先生
研修会：歯学系CBT問題作成ワークショップ	平成22年4月24日	東京医科歯科大学准教授：大槻昌幸先生、大阪歯科大学教授：池尾隆先生
講演会：東京歯科大学における卒前教育の取り組み	平成24年9月25日	東京歯科大学歯科医学教育開発センター歯科理工学講座教授：河田英司先生
講演会：医療人育成のためのプロフェッショナルリズム教育	平成24年12月11日	岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）教授：藤崎和彦先生
研修会：プロフェッショナルリズムPBL教育	平成25年4月16日	広島大学病院歯系総合診療科教授：小川哲次先生
講演会：将来の歯科医師養成に必要な視点とは何か	平成25年9月11日	東京医科歯科大学医歯学融合教育支援センター准教授：鶴田潤先生
講演会：歯科医療人育成のためのプロフェッショナルリズム教育とは	平成26年1月23日	九州歯科大学総合診療学分野病院教授：木尾哲朗先生
講演会：岡山大学歯学部の臨床教育戦略	平成26年4月27日	岡山大学歯学部長：窪木拓男先生
講演会：在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習において教育効果を向上させるためには	平成26年4月27日	日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科：高橋賢晃先生
講演会：在宅・訪問歯科診療における全身管理	平成26年4月27日	岡山大学病院歯科麻酔科：前田茂先生
シンポジウム：在宅・訪問歯科診療における臨床実習教育の展望	平成26年4月27日	岡山大学歯学部教務委員会臨床実習実施部会長：宮脇卓也先生、倉敷市近藤歯科医院：近藤修六先生、岡山協立病院：吉富達志先生、三豊総合病院歯科保健センター：木村年秀先生
講演会：再発見！研究ノートの記載方法	平成26年7月10日	岡山大学歯科矯正学分野教授：上岡寛先生

岡山大学歯学部 分析項目 I

講演会：歯科法医学の現状と歯科法医学教育における課題	平成26年7月15日	警察庁科学警察研究所法科学第一部生物第三研究室長：櫻田宏一先生
講演会：文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」について	平成26年9月26日	岡山大学歯学部長：窪木拓男先生
講演会：虚弱・サルコペニア予防における医科歯科連携の重要性	平成26年9月26日	東京大学高齢社会総合研究機構准教授、東京大学医学部在宅医療学拠点運営委員会委員：飯島勝矢先生
講演会：超高齢社会を見据えた未来医療予想図：～今、改めて医科歯科連携で何を成し遂げるのか～	平成26年9月27日	昭和大学歯学部：片岡竜太先生、弘中祥司先生
講演会：在宅歯科医療を支えるシミュレーション教育と臨床講師制度を利用した在宅介護歯科医療教育	平成26年9月27日	岡山大学歯学部教務委員会臨床実習実施部会長：宮脇卓也先生
講演会：地域医療における「ヒト」の育成 地域全体で育て地域医療マインドを培うー地域医療人材育成の教員の立場からー	平成26年9月27日	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座：佐藤勝先生
講演会：高齢者の歯と口腔機能が高齢長寿に及ぼす影響 文理融合型コホート研究より	平成26年9月27日	大阪大学歯学部：池邊一典先生
講演会：歯科法医学の現状と将来展望	平成27年1月16日	東京慈恵会医科大学法医学講座講師：福井謙二先生
シンポジウム：在宅訪問歯科診療教育の実践	平成27年9月24日	岡山大学歯学部臨床講師：華房英樹先生、角谷真一先生
講演会：プロフェッショナルリズム教育のジレンマ	平成27年11月11日	日本大学松戸歯学部教授：伊藤孝訓先生
講演会：アメリカの歯学教育	平成27年11月25日	米国・ニューイングランド大学歯学部教授：駒林卓先生
ワークショップ：TBLを学ぼう！	平成27年12月5日	九州大学大学院歯学研究院歯科医学教育学分野教授：三木洋一郎先生、佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター教授：小田康友先生
講演会：歯学教育認証評価について	平成28年1月28日	歯学教育認証評価検討WG座長：荒木孝二先生
講演会：医療プロフェッショナルリズム教育のストラテジー	平成28年2月10日	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科医学教育実践学分野教授：田口則宏先生
講演会：岡山大学歯学部における在宅・歯科訪問診療教育	平成28年3月13日	岡山大学歯学部教務委員会臨床実習実施部会長：宮脇卓也先生 岡山大学歯学部臨床講師：山本道代先生、土屋浩昭先生

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－18：OSCEワークショップ関連参加者数

(単位：人)

年 度	人 数
平成22年度	8
平成23年度	8
平成24年度	8
平成25年度	8

平成26年度	8
平成27年度	7

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－19：医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー参加者数

(単位：人)

年 度	人 数
平成22年度	1
平成23年度	1
平成24年度	1
平成25年度	1
平成26年度	1
平成27年度	1

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

5 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

- 1) 【臨床実習生の資格審査】 歯学系共用試験 (CBT、OSCE) が実施され、平成25年度より進級判定 (65点以上) に用いられている。また、その成績を分析して各教員にフィードバックしている (資料Ⅱ－Ⅰ－20)。
- 2) 【臨床実習指導医の資格審査】 臨床実習の質担保のため、平成27年度から指導医の資格審査を厳格化した (資料Ⅱ－Ⅰ－21)。
- 3) 【分野別認証評価】 文部科学省が進める分野別認証評価に参画し (資料Ⅱ－Ⅰ－22)、歯学教育認証評価に関するFDを開催、教員へ受審準備を周知した。
- 4) 【国際認証評価】 米国の認証基準であるCODAの審査委員を招聘し国際外部評価を実施するなど、教育方法改善に積極的に取り組んだ (別添資料2)。

資料Ⅱ－Ⅰ－20：共用試験

(社) 共用試験実施評価機構ウェブサイト (抜粋)

医学と歯学においては、臨床実習開始前に到達しておくべき態度・技能・知識のレベルが、モデルコアカリキュラム：教育内容ガイドラインとして提示されている。共用試験は、このガイドラインに準拠し、臨床実習開始前に、1) コンピューターを用いた客観試験 (Computer Based Testing、CBT) によって知識の総合的理解度を評価し、2) 客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination、OSCE) によって態度・基本的臨床技能を評価することにより、一定水準以上の学生を臨床実習に参加させるために、医学系全80大学、歯学系28大学が協力して推進している大学間で共通の評価システムである。

●平成27年度 共用試験歯学系CBT実施報告 (抜粋)

- (1) 実施日 平成27年8月20日 (木曜日)
- (2) 実施時間
- | | |
|-------|-------------|
| ブロック1 | 9:30～10:30 |
| ブロック2 | 10:50～11:50 |
| ブロック3 | 12:50～13:50 |
| ブロック4 | 14:10～15:10 |
| ブロック5 | 15:30～16:30 |
| ブロック6 | 16:50～17:50 |
| ブロック7 | 17:50～18:10 |
- (3) 実施会場 岡山大学鹿田地区基礎医学講義実習棟2階 実習室
- (4) 受験学年 5年次生
- (5) 受験者数 56人

- (6)欠席者数 0人
 (7)途中棄権者数 0人
 (8)マスコミ取材の有無 無

●平成27年度 共用試験歯学系OSCE実施報告（抜粋）

実施日：平成27年9月19日（土曜日）

参加教職員（総計121人）

①本学教職員（事務部3人含む）：104人

②外部教員：6人

③SP（模擬患者）：9人

モニタリング委員：2人（朝日大学 住友教授、鹿児島大学 田口教授）

受験学生：56人（5年次学生）

課題 1-2. 初診患者の医療面接（慢性症状）

2-1. 口腔内状態の記録

3-1. 浸潤麻酔

4-3. 欠損補綴の治療方針の説明

5-5. 普通抜歯

5-6. フッ化物塗布の6課題

（出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料）

資料Ⅱ－Ⅰ－21：臨床実習指導医の任命条件

臨床実習指導教員の資格として以下の4項目を設け、すべての項目を満たす者を臨床実習指導教員とする。なお、当資格は毎年推薦に基づき更新するものとする。

1. 各分野教授、スペシャルニーズ歯科センター長、医療支援歯科治療部長、歯学教育・国際交流推進センター長、教務委員長、歯科系代表副病院長、または学部長の推薦があること。
2. 歯科医師免許取得後4年以上の臨床経験がある、または1年以上の教員歴があること。
3. 推薦時において過去1年以内に、1回以上、岡山大学歯学部が主催するFDに参加していること、または歯学部教務委員会が認める他の講習会に参加していること。
ただし、初めて推薦される者は、臨床実習指導教員になってから当該年度内にFDに参加すること。
4. 歯学部教務委員会に推薦され、承認されること。

（出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料）

資料Ⅱ－Ⅰ－22：歯学教育認証評価検討WGメンバーへの参画

平成24年～平成28年度 文部科学省 大学改革推進等補助金「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業

「歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究（研究代表者：荒木孝二）」

歯学教育認証評価検討WGメンバー	所属大学	名前
国立大学	東北大学	高橋信博
国立大学	東京医科歯科大学	俣木志朗
国立大学	東京医科歯科大学	森尾郁子
国立大学	大阪大学	村上伸也
国立大学	岡山大学	窪木拓男
国立大学	広島大学	高田 隆
国立大学	九州大学	平田雅人
私立大学	北海道医療大学	斎藤隆史
私立大学	日本大学	中島一郎
私立大学	日本歯科大学	沼部幸博
私立大学	愛知学院大学	荒木章純

（出典：文部科学省資料「分野別認証評価に関する取組状況」）

(水準) 期待される水準を上回る
(判断理由)

専任教員数は大学設置基準を満たしており、歯学教育に必要な教員組織を確保している。各種入試形態を組み合わせる多様な人材の確保に成功している。従来からの臨床教授等に加え、在宅介護に造詣の深い歯科医師等を臨床講師に迎えるなど、全国でも先進的な取組は高く評価される。また、学内の積極的なFD活動のみならず、共用試験等の外部評価システムに関するワークショップ等にも参加し、教育方法の改善が図られている。以上から、期待される水準を上回っていると判断した。

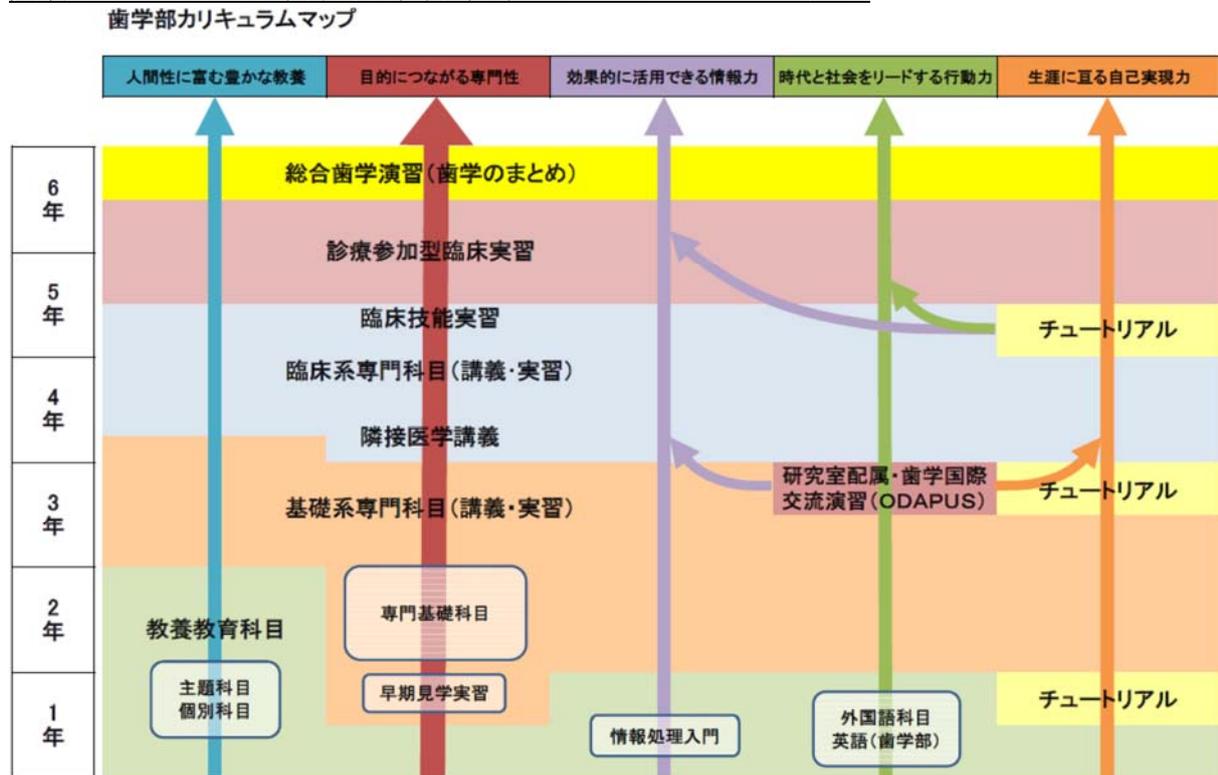
観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 体系的な教育課程の編成状況

- 1) 【カリキュラムの体系化】 初年次より早期見学実習を導入し、教養科目、基礎医学・歯学、人体解剖実習、短期留学・研究室配属、臨床医学・歯学、臨床実習と、学習段階に配慮した編成としている(資料Ⅱ-I-23)。ディプロマポリシー(資料Ⅱ-I-24)、カリキュラムの評価と改変は、教務委員会のカリキュラム検討部会を中心に実施している。
- 2) 【モデルコアカリキュラム準拠】 専門科目は、歯学教育モデルコアカリキュラム(資料Ⅱ-I-25、-26)に準拠する科目と、岡山大学歯学部が独自に策定した科目が含まれる。
- 3) 【特徴ある科目】 特色ある科目として、問題発見解決型教育、自由研究演習、短期海外留学(ODAPUS)、生命倫理学等を開講し、国際化、学際化、全人的医療を強く推進している(資料Ⅱ-I-27)。

資料Ⅱ-I-23：岡山大学歯学部のカリキュラムマップ



(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ-I-24：岡山大学歯学部のディプロマポリシー

- 人間性に富む豊かな教養【教養】
自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。
- 目的につながる専門性【専門性】
医療に対する社会の要請ならびに歯科医学の進歩に主体的に、独創的に対応し、高度な医療福祉の担い手となりうる歯科医師としての専門的知識・技能・態度を身につけている。
- 効果的に活用できる情報力【情報力】
先端的な歯科医学、歯科医療の発展を担うための問題発見、情報収集・分析能力を身に

付けると共に、成果を効果的に情報発信できる。

●時代と社会をリードする行動力【行動力】

歯科医学と歯科医療技術を基盤に、地域社会から国際的な場に至るまでの幅広い領域で行動できる。

●生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて、自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯に亘って歯科医療、歯科医学を志す者として自己の成長を追求できる。

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ－Ⅰ－25：歯学教育モデルコアカリキュラム

歯学教育モデルコアカリキュラム

歯学教育モデルコアカリキュラムは、歯学系各大学のカリキュラム作成の参考となる位置付けを教育内容ガイドラインとして提示したものである。項目立てや記載内容は、授業科目名を意味するものではなく、履修の順序を示すものではないことに留意すべきである。具体的な授業科目等の設定、教育手法や履修順序等は各大学の裁量に委ねられている。

モデルコアカリキュラムに示された教育内容だけで歯学教育が完成するものではなく、6年間の歯学教育課程の全てを画一化したコアカリキュラムの履修にあてることが正しくない。およそ従来の6割程度の時間数(単位数)で、モデルコアカリキュラムに示された内容を履修させることが妥当と考えられる。

各大学は、それぞれの理念等に基づいて、特色あるカリキュラムを設定することが必要であり、学生の学習ニーズや将来の進路に合わせて自由に選択できるカリキュラムを提供することが重要である。このモデルコアカリキュラムに示された内容を確実に習得した上で、残りの4割程度の時間で、個性ある各大学独自の学習プログラムを準備することが必要である。

(出典：歯学教育モデルコアカリキュラム—教育内容ガイドライン—平成22年度改定版(モデルコアカリキュラム改訂に関する連絡調整委員会))

資料Ⅱ－Ⅰ－26：歯学部専門教育科目シラバス

平成27年度歯学部専門教育科目シラバス (抜粋)

授業科目：機能的咬合系の成り立ちと顎関節症(口腔顔面痛)

授業担当責任者：窪木拓男

授業の概要：本科目では、まず顎口腔系を構成する咀嚼筋・顎関節・歯について、その正常構造を解説した上で、顎機能障害の分類、診査法さらに主な治療法について最新のトピックスをまじえながら解説する。しかし、本講義の目標は知識を詰め込むのみならず、あくまでも「顎機能障害」に関する正しい疾患概念をもつことである。

学習目標：

一般目標(GIO)：顎口腔機能について理解し、顎機能障害に関する基礎知識を修得する。

行動目標(SB0s)

1. 咀嚼筋、顎関節、歯の顎口腔系を構成する組織の機能と構造を説明する。
2. 下顎運動の基本を説明する。
3. 咀嚼の意義と制御機構を説明する。
4. 顎機能障害の種類と特徴を説明する。
5. 顎機能障害を概説する。

授業計画：

- | | | | |
|---|-------|------------|---------------------|
| 1 | 4月8日 | 題目：歯冠補綴学総論 | 授業内容：顎口腔系(1咀嚼筋) |
| 2 | 4月15日 | 題目：歯冠補綴学総論 | 授業内容：顎口腔系(2顎関節)(3歯) |
| 3 | 4月22日 | 題目：歯冠補綴学総論 | 授業内容：下顎位・下顎運動 |

教員：窪木拓男

成績評価：講義出席回数20点、小テスト20点、筆記試験60点

コアカリキュラムとの関連：F-2-(2) 頭頸部の診察、E-2-4)-(6) 顎関節疾患

研究活動との関連：機能的咬合系・顎関節症に関する研究を行っており、顎機能障害に関する本研究科での研究成果も含め、講義を行う。

【学部・学科DPとの関連割合】教養：15%、専門性：70%、情報力：15% 合計100%

(出典：平成27年度歯学部専門教育科目シラバス)

資料Ⅱ－Ⅰ－27：岡山大学歯学部の特徴ある専門教育科目について

平成27年度自由研究演習（研究室配属）・歯学国際交流演習（ODAPUS）報告集（抜粋）

報告書 フィニステラエ大学・チリ

10月1日から11月23日までチリの首都サンティアゴにあるフィニステラエ大学に留学する機会をいただいた。

チリは、西部の太平洋との海岸線、東部のアンデス山脈、北部のアタカマ砂漠によって囲まれ、国土は南北に細長く、北から南までの総延長は約4,630kmにも及ぶ。日本同様、地震の多い国である。首都はサンティアゴである。

フィニステラエ大学は、首都サンティアゴの学術地区プロビデンスシアに位置する私立大学である。歯科、看護、建築、経済、デザイン学部など多彩な学部を持ち、全学生数は1,391人。大学のキャンパスは日本に比べると大変小さいが、個々を尊重し、のびのびと自由に学ぶ学生の姿が多く見られた。

今回の留学のプログラムの内容は大学病院の見学と治療のアシスタント、歯のモデルを使った実習、義歯やインプラントに関する授業が主だった。

大学病院はメインキャンパスの他サンティアゴ市内にいくつか点在しており、私たちはその中でメインキャンパスの小児歯科、インプラント補綴学科、さらにメインキャンパスから車で20分の少し貧しい地域にあるマクルクリニックで治療の見学とアシスタントをさせてもらった。

フィニステラエ大学では実習が二年次から三年次にかけて行われており、私たちも週二回その実習に参加させていただいた。私たちが行ったものは、ブラックの分類に基づくすべてのClassに対する保存修復の実習で、現地の学生はアマルガムによる修復が主であるためそちらを修復に使用していたが、私たちはコンポジットレジンによる修復を行った。日本でまだ一度もこのような実習を行っていなかった私たちにとって難しい点がたくさんあったが、実習は楽しく、今後のスキルアップにつながったと感じる。

(続く)

(出典：平成27年度ODAPUSプログラム、自由研究演習実施報告集)

2 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

- 1) 【新たな社会ニーズに対応】 医療法学・社会福祉学及び実践歯科医療学をオムニバス形式で開講している（資料Ⅱ－Ⅰ－28、－29）。
- 2) 【診療参加型臨床実習の充実】 学生1人当たり患者を平均30名担当している。客観的プロセス評価を可能とする電子ログブックの開発を行った。平成25年度からは医療人としての態度も評価項目に取り入れ、中間評価、Post-CC OSCEを導入している（資料Ⅱ－Ⅰ－30）。
- 3) 【文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラムの採択】 人口の少子高齢化に伴う社会構造の変化に歯学教育が対応するために、平成26～31年度文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラムが、岡山大学歯学部を拠点校とした全国11大学（北海道大学、金沢大学、大阪大学、岡山大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、日本大学、昭和大学、兵庫医科大学）を対象に採択された（別添資料3）。
- 4) 【卒後臨床研修制度への対応】 平成17年度の卒業生から卒後臨床研修が必須化された。研修医のマッチングはほぼ100%を維持している（資料Ⅱ－Ⅰ－31）。
- 5) 【大学院臨床専門医コースの充実】 平成19年度より、研修医制度を含めたキャリアパスを整理し、歯学系大学院を国際的な基礎系研究者を養成する一般コースとリサーチマインドに溢れ高い臨床能力を持つ専門医を養成する臨床専門医コースに分割し、各々を実質化している。文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラムの採択を得た臨床専門医コースの人気は高く、本中期目標期間中に「臨床専門医コース(歯学系)」に延べ173名が入学した（資料Ⅱ－Ⅰ－32）。

資料Ⅱ-I-28：平成27年度医療法学・社会福祉学授業計画

開 講 日	時限	授業科目	講師名	講師所属等
4月13日(月)	3	ガイダンス	森田 学	岡山大学歯学部 (教務委員長)
4月14日(火)	3	地域医療	佐藤 勝	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 地域医療人育 成講座・教授
4月20日(月)	2	法医学	宮石 智	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 法医学・教授
4月21日(月)	5	医療と福祉	武田則昭	川崎医療福祉大学 医療福 祉学部 医療福祉学科・教 授
4月27日(月)	4、5	法歯科医学	高橋雅典	東邦大学 医学部 法医 学・教授
5月11日(月)	3	国際医療ポラン ティア	高柴正悟	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 歯周病態学・ 教授
5月11日(月)	4	地域歯科医療・在 宅歯科医療	澤田弘一	鏡野町国民健康保険上斎 原歯科診療所・所長
5月18日(月)	1	医事法制・医療倫 理	栗屋 剛	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 生命倫理学・ 教授
5月18日(月)	2	法医学	宮石 智	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 法医学・教授
5月18日(月)	3	医事法制・医療倫 理	栗屋 剛	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 生命倫理学・ 教授
5月18日(月)	4	医療政策・医療経 済学	浜田 淳	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 医療政策・医 療経済学・教授
5月18日(月)	5	女性と医療	片岡仁美	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 地域医療人育 成講座・教授
5月25日(月)	3	心身医学	大西 勝	岡山大学 保健管理センタ ー・教授
5月25日(月)	4	成人・高齢者保健	岡本玲子	岡山大学 大学院保健学研 究科 看護学・教授
5月25日(月)	5	国際医療貢献	成澤貴子	AMDA 理事長

(出典 平成27歯学部専門教育科目シラバス)

資料Ⅱ-I-29：平成27年度実践歯科医療学授業計画

開 講 日	時限	授業科目	講師名	講師所属等
4月28日(火)	5	ガイダンス	宮脇卓也	岡山大学歯学部 (臨床実習実施部会長)
4月30日(木)	5	チーム医療	曾我賢彦	岡山大学病院 医療支援歯 科治療部 准教授
5月7日(木)	5	臨床歯科心理学	岸田脩作	岸田歯科医院 院長
5月14日(木)	5	医療安全と医療訴 訟	森脇 正	森脇法律事務所 弁護士
5月20日(水)	5	患者の心理	中島弘徳	岡山理科大学 理学部教授
5月21日(木)	5	臨床薬剤学	千堂年昭	岡山大学 大学院医歯薬学 総合研究科 臨床薬剤学 教授

5月27日(水)	5	医療安全の実践	前川 珠木	岡山大学病院 医療安全管理部 看護部長
5月28日(木)	5	災害時救急医療	氏家 良人	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 救急医学教授
6月1日(月)	5	災害時チーム医療	名倉 弘哲	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 救急薬学教授

(出典 平成27年度歯学部専門教育科目シラバス)

資料Ⅱ-I-30: 臨床実習実施部会活動

平成26～27年度第9回臨床実習実施部会議事録(抜粋)

日時:平成27年6月3日(水)

場所:歯学部2階カンファレンスルーム

報告事項

- 第8回 臨床実習実施部会議事録について(資料1)
 - 副部長より資料1に基づき報告がなされた。
- 学生ミーティングについて(資料2)
 - 副部長より資料2に基づき報告がなされた。
- 5月の学生の動向(別途資料)
 - 副部長より別途資料に基づき報告がなされた。
- 超音波スケーラーの取り扱いについて
 - 歯科衛生士より研修医と一診学生で完全に分けて器材当番がチップを数えるようにしてから紛失は減少し、また同じくレンチも研修医と分けて赤テープを付けて分別すること、教員が引き続きスケーラーチップを外すことを徹底して欲しいことを呼びかけた。
- 学生退出システムの運用について(資料3)
 - 副部長より資料3に基づき報告がなされた。
- アンケート調査実施について(回覧資料)
 - 例年のように学生に一診各科に対してアンケートを行いその結果を回覧した。当資料は後日ファイルとして各委員に送付しそのフィードバックの回答6月26日までに副部長あてに提出することとなった。
- その他
 - 歯科衛生士よりバーやコンタクトゲージが多数紛失していることで、指導教員も注意して欲しいとの呼びかけがあった。
 - 歯科衛生士より鹿田地区での学外実習は報告書が不要という見解があるが報告書が無いと、学生の所在の確認ができないためその対策について担当指導教員より担当者に確認していただくことになった。

審議事項

- 例年よりも器具刺し、特にスケーラーでの器具刺しが多く、その対策について審議を行った。部長よりスケーラー用の器具刺し防止用のキャップの数が無いことより、診療中のスケーラーチップでの器具刺しについて問いかけたが、三浦歯科衛生士より診療終了後にスケーラーやバーで刺すことが多いとの報告があった。このため部長より、従来から決まっているように、まずは、バーは診療終了後に学生がタービン、ハンドピースまたはコントラから必ず外すこと、スケーラーについては指導教員が必ず外すことを徹底するよう指示があった。
- 臨床実習・予備実習要項編集改訂作業スケジュール分担について(別紙)
 - 上記について部長より説明があった。
- タブレット端末の活用に関して(資料4)
 - 副部長が学生のタブレット端末に対する希望の集計を説明した。また部長より、タブレットをマスカットの端末につなげることや、患者情報を入れることは不可であることが説明された。
 - 委員より「学生を呼び出すのに使用したい」、「国家試験の過去問を入れたい」、「特別講義の資料を入れたい」、「臨床実習マニュアルを入れたい」、学生より「指導教員の居場所がわかるようにしてほしい」等の意見が出たが各科で持ち帰って検討することになった。
- その他
 - 委員より医療支援部が「～学」で入力することをシステム支援係に問い合わせたところ、大きな経済的な負担がかかるため、システムの更新がある時に申請することになった。

- ・委員より医療支援部の研修項目についての案が示されたが（別紙あり）、再検討していたことになる。
- ・部会長より、予診室における指導教官より説明を行う同意書の件については、7月を目処に開始する予定であると報告があった。
- ・部会長より、咬合義歯科専用のチェアを総合歯科に配置する件は保留になったことが報告された。
- ・委員が来年度より60分授業になり、7月末にOSCEが行われる可能性を説明し、第二クォーターに臨床予備実習が入ることがほぼ決定であることが説明され、各科で臨床予備実習の内容を検討してもらい、臨床実施マニュアルにこの件をいれなければならないことが再確認された。

（出典 歯学部教務委員会資料）

資料Ⅱ－Ⅰ－31：研修医マッチングプログラム

歯科医師臨床研修マッチングプログラム

歯科医師臨床研修マッチングプログラム（以下、歯科マッチング）とは、歯科医師免許を得て歯科医師臨床研修を受けようとする者（以下、研修希望者）と、歯学若しくは医学を履修する課程を置く大学に附属する病院（歯科医業を行わないものを除きます。）又は厚生労働大臣の指定する病院若しくは診療所（以下、研修施設）の研修プログラムを、研修希望者及び研修施設の希望を踏まえて、一定の規則（アルゴリズム）に従って、コンピュータにより組合せを決定するシステムです。

（出典：歯科医師臨床研修マッチング協議会ホームページ）

資料Ⅱ－Ⅰ－32：研修医制度と大学院を結んだキャリアデザインセミナー

「歯科医療人としてのキャリアデザインセミナー—歯学研究者・専門医のための大学院進学説明会—」

日 時 平成27年6月3日（水） 16：30～
場 所 第2講義室
内 容

研修歯科医による歯科医療人としての将来のキャリアデザインを支援するため、歯学研究者あるいは専門歯科医師としてのキャリアパスについて各分野の研究内容等を提示し、進路検討の機会とする。特に、このセミナーでは、国際レベルの基礎研究者を目指す大学院一般コースへの進学の説明のみならず、臨床研修医前期、臨床研修医後期、大学院臨床専門医コースを繋いだ臨床専門医を目指したキャリアパスの説明に力を注いでいる。

大学院の授業料、単位、修了要件、奨学金、図書館の利用法、各専攻分野の研究内容、社会人が入学する場合の注意点等について説明した。

（出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料）

3 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

- 1) 【クォーター制の採用】 クォーター制により、3年次第3クォーターにおいては、2か月間以上にも渡る自由研究演習、短期海外留学を可能としている（資料Ⅱ－Ⅰ－33）。
- 2) 【短期留学制度の双方向化】 短期海外留学制度(ODAPUS)を、平成25年度からは双方向プログラムとした（平成27年度：派遣16名、受入れ20名）。
- 3) 【英語授業シリーズ】 短期留学制度(ODAPUS for foreign universities)に対応して、英語授業シリーズ（90分×15回）を平成26年度から開講した。
- 4) 【国際シンポジウム】 海外有名校から歯学部長クラスの要人を招聘し、岡山医療教育研究国際シンポジウムを開催した（平成25年9月、別添資料4）。また、岡山分子イメージング高度専門人材育成事業の一貫として、International Symposium on Bio-imaging and Gene Targeting Sciences in Okayamaを開催した（平成27年2月、別添資料5）。

- 5)【部局間、大学間交流協定の締結】 積極的に部局間交流協定や大学間交流協定の締結を行った（平成27年度末、部局間交流協定22件、大学間交流協定5件）。
- 6)【外部資金の獲得】 海外派遣、受入れともに、日本学生支援機構の海外留学支援制度、岡山大学機能強化戦略経費、JST さくらサイエンスプラン等により支援を頂き、推進されている（資料Ⅱ-I-34）。

資料Ⅱ-I-33：クォーター制の採用

平成27年度歯学部学生便覧
歯学部規程（抜粋）

（専門教育科目の学期）

第9条 専門教育科目の学期は、学則第35条に規定する前期を第1期及び第2期、後期を第3期及び第4期に分割する。なお、それぞれの期間は、次のとおりとする。

- 第1期 4月1日から5月31日まで
- 第2期 6月1日から9月30日まで
- 第3期 10月1日から11月30日まで
- 第4期 12月1日から翌年3月31日まで

（出典：平成27年度歯学部学生便覧）

資料Ⅱ-I-34：外部資金の獲得状況について

国際交流（短期）に関わる外部資金の獲得状況（平成27年度）

平成27年度は、岡山大学歯学部生の短期派遣は16名、海外の連携校からの歯学部生受入れは、20名。以下は、岡山大学歯学部にて採択された外部資金のリストを示す。私費での受入れがあるため、これらに示された人数と実際の交流人数は必ずしも一致しない。

●日本学生支援機構 海外留学支援制度（協定派遣 短期研修・研究型）

プログラム番号：HTK1515301003

事業名： 国際的医療人や研究者を養成するための歯学国際交流演習

配分額： 2,100千円（10人、30か月）

派遣先：	チリ	フィニステラエ大学	歯学部生2名
	ブラジル	サンパウロ大学	歯学部生2名
	豪州	チャールズ・スタート大学	歯学部生1名
	台湾	台北医学大学	歯学部生4名
	タイ	マヒドン大学	歯学部生1名

●大学機能強化戦略経費 テーマ：4-2 学生交流の推進

事業名： クォーター制を利用した歯学部国際交流事業の推進と世界展開

申請額： 4,920千円

配分額： 500千円

派遣先： 米国 オハイオ州立大学 歯学部生2名（1名は支給せず）

受け入れ： ブラジル サンパウロ大学 歯学部生6名（2名は支給せず）

●大学機能強化戦略経費 テーマ：4-1 学術交流の推進

事業名： 南米からの留学生及び外国人教員獲得のための取組

申請額： 3,000千円

配分額： 500千円

●大学機能強化戦略経費 テーマ：4-3 グローバル人材育成支援

事業名： ハイフォン医科薬科大学国際歯科センターを中心とした医療系連携大学院構想

申請額： 3,000千円

配分額： 1,000千円

派遣先： ベトナム ハイフォン医科薬科大学 歯学部生3名

受け入れ： ベトナム ハイフォン医科薬科大学 歯学部生3名

●岡山大学国際共同プログラム等形成事業

事業名： 米国オハイオ州立大学歯学部との部局間交流協定に基づく歯学生相互交流プログラム、オランダACTAとの部局間交流協定に基づく歯学生相互交流プログラム
 助成金額： 400千円

●JST さくらサイエンスプラン

受付番号： E20150615129

事業名： ベトナム北部医療系大学の教員を対象にした日本の最先端歯学研究や臨床見学を高密度にパッケージ化した短期留学体験

申請額： 1,524千円

配分額： 1,524千円

●JST さくらサイエンスプラン

受付番号： E20151026060

事業名： インドネシア・ハサヌディン大学の教員を対象とする日本の最先端歯学研究及び臨床技術の体験プログラム

申請額： 894千円

配分額： 760千円

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

4 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

- 1) 【研究室配属】 3年次第3クォーターにおいては、2か月間以上にも渡る自由研究演習を可能としている。学内の研究分野に滞在し、研究の体験ができる。また、優れた学生には、Student Clinician Research Programで発表させた。
- 2) 【連携大学院協定の締結】 上記制度で学生を国内に2カ所派遣することを可能とするために、国立感染症研究所と国立長寿医療研究センターと連携大学院協定を締結している。

5 学生の主体的な学習を促すための取組

- 1) 【問題発見解決型教育】 新入生の問題発見解決能力を育てるため、1年次から問題発見解決型チュートリアル(PBL)教育を実施している。また、3年次には、医療コミュニケーション教育に関するPBL教育、4年次には、プロフェッショナリズム教育、Evidence-Based Medicineに立脚した治療方針の決定と患者説明に関するPBL教育を行っている(別添資料6)。
- 2) 【ICTを利用したアクティブラーニング】 アクティブラーニングを可能とするウェブクラスやフリッカーなどを利用した授業が行われている。最近では、教務委員会主導で、チーム基盤型学習(TBL)を導入し、学生の自学自習を促している。また、臨床実習ではウェアラブル端末を用いた動画資料の閲覧が可能となっている。
- 3) 【臨床実習におけるクリニカルクラークシップの実施】 患者、実習生1名、担当教員1名がタッグを組んで臨床教育に当たっている。本学習には事前学習が必須であり、究極のアクティブラーニングと言える。

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

教育課程は歯学教育モデルコアカリキュラムに基づき体系的に編成されており、知識・技能・態度をバランス良く身に付けられるよう考えられている。加えて、プロフェッショナリズムや生命倫理、死生学など、臨床医に欠くべからざる能力が最新の概念に基づき教育されている。さらに、先進的な双方向短期留学制度、自由研究演習（研究室配属）、チュートリアル教育、チーム基盤型学習等、歯学部独自の先進的な教育プログラムが準備され、学生の国際感覚の涵養や、問題発見解決能力の育成に貢献している。

以上から、期待される水準を上回っていると判断した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

- 1) 【歯学系共用試験の成績】 臨床実習のための資格試験である歯学共用試験(CBT、OSCE)の成績は、全国レベルから見て高い水準にある(資料Ⅱ-Ⅱ-1)。
- 2) 【低い留年率】 平成27年度における留年・休学者の割合は、9.3%と低い(全国29校中低い方から4位、文部科学省医学教育課調べ)。この結果、標準修業年限以内で国家試験に合格する率は、全国でもトップクラスである。

資料Ⅱ-Ⅱ-1 : CBT、OSCE成績

1) CBT成績

年 度	受 験 者	合 格 者	不 合 格 者
平成22年度	5年次生 58人	58人	0人
平成23年度	5年次生 65人	65人	0人
平成24年度	5年次生 56人	56人	0人
平成25年度	5年次生 52人	50人	2人
平成26年度	5年次生 57人	54人	3人
平成27年度	5年次生 56人	55人	1人

※平成25年度から合格点を60点から65点に引き上げている。

2) OSCE成績

年 度	受 験 者	合 格 者	不 合 格 者
平成22年度	5年次生 58人	58人	0人
平成23年度	5年次生 65人	65人	0人
平成24年度	5年次生 56人	56人	0人
平成25年度	5年次生 52人	50人	2人
平成26年度	5年次生 57人	54人	3人
平成27年度	5年次生 56人	55人	1人

※平成25～27年度の不合格者は、CBT不合格によりOSCEを受験できなかった者である。

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

2 資格取得状況、学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果

- 1) 【歯科医師国家試験の合格状況】 5年生第4期から行っている復習科目、面接等により、国家試験の合格率が上昇した(資料Ⅱ-Ⅱ-2)。直近の平成25年度(26年)、平成26年度(27年)、平成27年度(28年)の歯科医師国家試験では、全国29歯科大学中、2位、3位、7位の合格率を得ている(資料Ⅱ-Ⅱ-3)。
- 2) 【Student Clinician Research Programの授賞】 歯学部生のStudent Clinician Research Program国内予選会に毎年参加し、平成25年度は全国優勝の栄誉に輝いた(別添資料7)。

資料Ⅱ－Ⅱ－2：国家試験対策部会活動報告書

国家試験対策部会議事要旨（抜粋）

平成28年1月22日（金）開催

報告事項

1) 前回の会議からこれまでの活動報告
(6年生)

- ・12月12-13日 公開模試（DES3回目）
- ・12月26-27日 公開模試（麻布3回目）
- ・1月6日 国試壮行会

個人面談

(5年生)

- ・1月13日 国試対策部会説明会・preテスト
以上の実施、また国試壮行会にて窪木学部長からの激励と合格鉛筆の配布を行ったことが報告された。

2) 公開模試成績について

- ・順位変遷（資料1）
- ・麻布3回目 年度別比較（資料2）

資料に基づき試験結果が説明され、麻布3回目にて全国順位2,000位以上の学生が昨年より多かったこと、またこの結果をもとに成績不良者数名の個人面談を行い、現状把握と激励を行ったことが報告された。

3) 歯学の復習preテスト結果について（資料3）

資料に基づき試験結果が説明され、得点率50%未満の学生が昨年度より減少したことが報告された。

4) 前回会議における「総合歯科医学（旧 歯学の復習）」の訂正について

前回会議にて報告した「総合歯科医学（旧 歯学の復習）」が国試対策部会からCBT部会の担当科目に変更になったことが報告された。

そして、歯学のまとめまでの臨床実習期間一診中に国試対策部会が関わる科目がなくなることから、臨床実習期間中に新たな授業科目である総合歯学演習（旧 歯学のまとめ）を開講することが報告された。

5) 平成28年度 総合歯学演習 実施計画について（資料4）

資料に基づき新規開講である総合歯学演習の実施計画が報告された。

今まで臨床実習期間中に行っていた歯学の復習では、教科書として「ラスパ」を使用し講義とまた試験における作問を行っていたが、総合歯学演習ではどのような教科書を使用するか、また試験における作問はどのような形式で行うかを年度内に一度部会を開催し決定することとした。

6) その他

その他として、歯学の復習preテストの結果をもとに現臨床実習生全員の面談を行っていくことが報告された。

(出典：歯学部国家試験対策部会議事要旨)

資料Ⅱ－Ⅱ－3：歯科医師国家試験合格率

実施年度	合格率(%)	歯学部合格率の全国順位	全国平均合格率(%)
平成22年度	85.5	7位(29校中)	71.0
平成23年度	76.5	15位(29校中)	71.1
平成24年度	83.8	8位(29校中)	71.2
平成25年度	86.6	2位(29校中)	63.3
平成26年度	80.0	3位(29校中)	63.8
平成27年度	78.5	7位(29校中)	63.6

(出典：厚生労働省歯科医師国家試験成績報告)

3 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

- 1) 【学生授業評価アンケート】 学生授業評価アンケートの評点は、第1期終了時よりも大幅に改善した。また、第2期においては、常に歯学部の学生授業評価は他学部の平均を上回っている(資料Ⅱ-Ⅱ-4)。オムニバス形式の共通科目では、授業別に評価アンケートを実施し、評価を行った。
- 2) 【学生との意見交換会】 学生生活委員会では、各学年の代表学生との意見交換を行い、勉学環境を含め、改善に努めている(資料Ⅱ-Ⅱ-5)。

資料Ⅱ-Ⅱ-4：学生授業評価アンケート

平成26年度授業評価アンケート結果分析

平均評点3未満の講義数

歯学部において平均評点3未満の講義数は皆無であった。講義を担当する教員の教授法改善の結果と考えられる。今後もこれを継続すべく一層努力したい。

(出典：平成26年度授業評価アンケート結果分析)

平成26年度授業評価アンケート集計結果(抜粋)

【 専門教育科目の平均値 】

質問項目	Q2	Q3	平均4以上の講義数割合	平均3未満の講義数割合
歯学部	4.32	4.32	94.9%	0.0%
大学全体	4.13	4.16	78.0%	0.3%

Q2：この授業にあなたは予習・復習を行うなどして意欲的に取り組みましたか。

Q3：この授業全体に対するあなたの評価(満足度)を教えてください。

(出典：平成26年度後期授業評価アンケート集計結果)

資料Ⅱ-Ⅱ-5：学生生活委員会と学生との意見交換会資料

平成27年度歯学部学生生活委員会主催「学生・教職員の懇談会」

1. 日時 平成27年12月16日
2. 場所 歯学部第2会議室
3. 議題
 - ・自己紹介
 - ・学生からの意見・要望
 - ・教員・担当事務からの意見・要望

参加者：歯学部学生 各学年代表2人、校友会会長、課外活動代表
 歯学部学生生活委員(含歯学部長)
 教務グループ歯学部担当

(出典：歯学部学生生活委員会 教務グループ歯学部担当)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

学部学生が歯学教育に持つ印象はすこぶるよい。全学レベルで行われている授業評価アンケートにおいても、他学部と比較して優れた結果が得られている。また、Student Clinician Research Program 全国大会優勝に見られるように、リサーチマインドを持つ学生を養成できている。臨床志向の学生にとっても、診療参加型臨床実習の充実は教育に対する満足度を上げ、さらには歯科医師国家試験の高合格率にも繋がっている。

以上のことから、期待される水準を上回っていると判断した。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

- 1) 【卒後臨床研修状況】 平成17年度卒業生から卒後臨床研修が必修化された(資料Ⅱ-I-31:p7-20)。卒業生の6割は岡山大学病院において、4割はその他の病院において卒後研修を行っている(資料Ⅱ-II-6)。
- 2) 【卒後臨床研修マッチング状況】 卒後臨床研修の説明会を年数回開催している。その結果、岡山大学病院卒後臨床研修制度マッチング率は100%を維持しており、中国四国地区ではトップである。
- 3) 【大学院への進学状況】 歯学系大学院の責任定員(32名)を毎年ほぼ充足しており(歯学系定員32名のところ、平成25年度が37名、平成26年度が42名、平成27年度が31名)、中国四国地区トップの充足である。そのうち、本学卒業生の割合が半数以上を占めており、学部から大学院へのキャリアパスが学生のニーズに合致した証左と思われる(資料Ⅱ-II-7)。
- 4) 【就職状況】 卒業生は、ほぼ例外なく歯科医師となり、最終的に歯科医院を開業する者が多い。一方、大学教員、研究所勤務、病院勤務、中央省庁や地方の保健関係の職業に就く者もあり、その進路は多岐に渡る。

資料Ⅱ-II-6：岡山大学歯学部卒業生の卒後研修マッチング結果

年 度	岡山大学病院で研修	他の病院で研修	計
平成22年度	28 人	22 人	50 人
平成23年度	32 人	14 人	46 人
平成24年度	29 人	23 人	52 人
平成25年度	37 人	14 人	51 人
平成26年度	29 人	15 人	44 人
平成27年度	28 人	16 人	44 人

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

資料Ⅱ-II-7：岡山大学歯学部卒業生の大学院進学状況

卒業年度	卒業生数	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科		他大学医療系 大学院	他分野大学院
		入学年度	人数		
平成22年度	60 人	平成23年度	0 人 (11)	0 人	0 人
平成23年度	58	平成24年度	1 (27)	0	0
平成24年度	64	平成25年度	0 (19)	0	0
平成25年度	56	平成26年度	0 (15)	0	0
平成26年度	49	平成27年度	1 (27)	0	0
平成27年度	54	平成28年度	0 (19)	0	0

()内は岡山大学卒業生で平成23～28年度に大学院歯学系に入学した者の数である。

(出典：大学院医歯薬学総合研究科等事務部資料)

2 在学中の学業の成果に関する卒業予定者及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

- 1) 【卒業予定者による評価】 学部教育に満足していると答えた者は、平成25年度が74.5%、平成26年度が94.6%に達していた。以上より、学生の立場に立った歯学教育がなされていると考えられた（別添資料8）。
- 2) 【就職先の関係者からの評価】 卒業生の雇用主のアンケート調査によると、「指示に対する理解力」、「職務の遂行能力」に関して肯定的な意見が100%を占めた。また、「社会的常識を持ち、健全な人間関係を築くことができる（社会的常識）」、「自分の意思を伝えられる」という点でも肯定的な意見が100%を占めた（別添資料9）。
- 3) 【歯科医師会などの評価】 岡山県歯科医師会や岡山県歯科衛生士会による外部評価でも、両組織共に5点満点でほぼ4点のよい評価を得た（別添資料10）。

（水準） 期待される水準を上回る

（判断理由）

岡山大学歯学部の教育に対する卒業予定者からの評価は高く、就職先の雇用主からの評価も高い。また、研修医のマッチング状況もほぼ100%を継続しており、大学院医歯薬学総合研究科の定員充足率も例年ほぼ100%を超えている。卒業後の進路も多様で、開業歯科医としてだけでなく、大学の教育研究者、保健行政官、中央省庁の官僚等、多方面で活躍している。

以上のことから、卒業生並びに社会から期待される水準を上回っていると判断した。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

【外部評価を利用した教育方法改善】について

第1期では、歯学部教務委員会に専門部会をおき、CBT、OSCEの試験結果の分析とそれによる成績判定の基準の明確化（60点）を行ってきた。

第2期では、CBTの合格点を5点引き上げ65点とし、臨床実習生の質の担保を強化した。文部科学省が主導する「歯学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議」のフォローアップ調査では良好な評価を得た。分野別認証評価に積極的に関与するのみならず、米国の認証基準であるCODAの審査委員を招聘し国際外部評価を実施するなど、教育方法改善に積極的に取り組んでいる。

このように、第2期における外部評価を利用した教育方法改善は、第1期よりも、改善、向上した。

【学部教育の国際化】について

第1期では、ODAPUSは岡山大学歯学部生が海外の歯学部へ派遣される一方向のプログラムであった。

第2期では、海外協定校からも学生を受け入れる双方向プログラムへと発展した。海外一流校との交流協定数も激増している。本プログラムは、日本学生支援機構の海外留学支援制度に採択されている。また、学生短期受入れについては、大学機能強化戦略経費の採択を得て精力的に進めている。学生が主体的に行う受入れ学生との交流会、英語による授業シリーズ、病棟や手術室、外来の見学実習など、交流内容も充実している。教員レベルの交流も、JSTさくらサイエンスプランの採択を得て、積極的に進められている。また、ベトナム・ハイフォン医薬大学に国際歯科センターを共同で設立し、ベトナムにおける医療支援、日本人歯学生の滞在支援、ベトナム歯学生の教育支援の拠点として機能している。

このように、第2期における学部教育の国際化は、第1期よりも、大きく改善、向上した。

【超高齢社会への対応】について

第1期では、精神心理学的問題に焦点をあて、全人的歯科医療教育に取り組んできた。

第2期では、医療コミュニケーション学、プロフェッショナルリズム教育を取り入れる一方、時代のニーズに促した医療訴訟や法歯学、死生学などの授業をオムニバス形式で提供している。特筆すべきは、平成26年度文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムの拠点校に歯科医師養成校として全国2校の一つに選ばれたことである。超高齢社会に歯科医学教育を適応させることは直近の大きな課題であり、全国の歯科大学（10校）を率いてこれを実質化する試みは歯科医学教育において近年ないインパクトを与えている。

このように、第2期における超高齢社会への対応は、第1期よりも、大きく改善、向上した。

【臨床実習教育の充実】について

第1期では、クリニカルクラークシップに基づく診療参加型臨床実習を確立し、超急性期病院である岡山大学病院歯科における臨床実習に加え、学外臨床教授等を利用した学外見学実習を行ってきた。

第2期では、在宅介護現場を利用した学外インターンシップ実習や医科歯科連携・多職種連携実習を取り入れた。診療参加型臨床実習の客観的評価ツール

として電子ログブックの開発を行った。最近では、臨床実習に關与する教員の資格認定制度、臨床実習に参画頂く患者の同意取得が実施されている。

このように、第2期における臨床実習教育の充実に向けた取組は、第1期よりも質量ともに、改善、向上した。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

【歯科医師国家試験合格率と学生指導体制】について

第1期では、歯科医師国家試験合格率の向上を目指し、歯学部教務委員会に国家試験対策部会を設置し、全分野からの協力の下その対策を開始した。

第2期では、5年生の第4期から歯学の総合的な学習を促す授業を新規に実施した。また、国家試験対策部会による学生への面談を実施し、生活指導を開始した。その結果、直近の平成25年度、26年度、27年度の歯科医師国家試験では、全国歯学部の平均合格率が急激に低下する中、29歯科大学中、2位、3位、7位の高い合格率を得た。

したがって、学生の指導体制という面では、第1期の水準よりも、改善、向上した。

【大学院へのキャリアパス】について

第1期では、臨床研修医制度が実施されたことに伴い、平成18年前後に研修医ショックと呼ばれる大学院入学生の落ち込みが生じた。これに対応すべく、大学院の臨床専門医コースを開設した。

第2期では、後期研修医になりながら大学院臨床専門医コースに入学できる制度を開始して、歯学部から、研修医、大学院臨床専門医コースに至るキャリアパスを強化した。その結果、研修医のマッチング率、歯学系大学院の充足率は共に100%程度と高値で維持されている。これは、中国四国地区の国立大学歯学部の中ではトップの入学者数である。

したがって、大学院へのキャリアパスを確立したという点から、第1期の水準よりも、改善、向上した。